

CD-ROM「けんさく君2009」について

検索の利便性と多面的な情報提供を可能とするため、配合変化検索にはCD-ROMに収録されている「けんさく君2009.chm」を利用してください。
ソフトはWindows上のヘルプシステム「Microsoft Compiled HTML Help」を利用しており、目次タブと検索タブから検索できます。

目次タブの検索画面

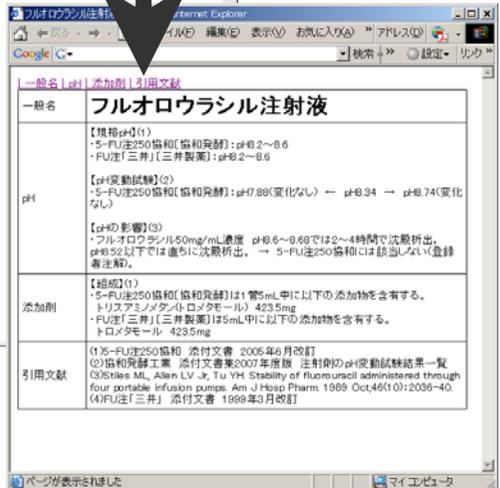


「けんさく君2009」の画面
配合変化結果が●×▲で
一目瞭然

●×▲をクリックすると
詳細が表示されます



各薬剤をクリックすると
詳細画面がIEで開きます



検索タブの検索画面

検索語の入力は製品名、
一般名、略語に対応
しています。

検索語はハイライト
表示されます

目次タブと同様に
詳細画面を用意
しています

他にも役立つ情報を
収録しています。
例: 溶解後の安定性

室温保存		冷蔵保存	
■25℃ 遮光下保存 24時間後	100.0%	■25℃ 非遮光下保存 24時間後	100.0%
0.75mg/mL5%ブドウ糖液)	100.0%	0.75mg/mL5%ブドウ糖液)	98.8%
0.75mg/mL(生理食塩液)	98.8%	0.75mg/mL(生理食塩液)	98.8%
		0.75mg/mL(リタ3号)	101.3%
		0.75mg/mL(ラック注)	98.8%



CD-ROM「けんさく君2009」

目次

章 総論

- 1 注射薬製剤について
 - 1.1 注射剤の種類と適応
 - 1.2 注射剤の種類
 - 1.3 注射剤の投与方法
 - 1.4 滅菌法及び無菌操作法
 - 1.5 添加剤
- 2 配合変化について
 - 2.1 配合変化の分類
 - 2.2 吸着・ルートの材質・フィルターについて
- 3 調製
 - 3.1 シリンジ
 - 3.2 シリンジの種類・材質
 - 3.3 プラスチックシリンジの容量と許容誤差
 - 3.4 ルアーの種類
 - 3.5 注射針
 - 3.6 コアリング
 - 3.7 混合方法, 溶解液
- 4 略号一覧

章 操作の説明

- 1 「けんさく君2009」の操作
 - 1.1 システムの起動と終了方法
 - 1.2 画面の説明
 - 1.3 検索結果
 - 1.4 注射薬特性ファイル

章 附表

- 1 乳酸を含有する薬剤一覧
- 2 カルシウムを含有する製剤一覧
- 3 システインまたはシスチンを含有する薬剤一覧
- 4 ビタミン(B2, C)を含有する薬剤一覧
- 5 マグネシウムを含有する薬剤一覧
- 6 リン酸を含有する薬剤一覧
- 7 炭酸を含有する薬剤一覧
- 8 アミノ基を有する注射薬
- 9 カルボキシル基を有する注射薬
- 10 亜硫酸塩を含有する薬剤一覧
- 11 輸液製剤の材質と予備容量
- 12 総合電解質液
- 13 低張電解質液
- 14 細胞外液補充液
- 15 アミノ酸製剤
- 16 脂肪乳剤
- 17 TPN用総合ビタミン剤
- 18 pH4 未満の注射薬
- 19 pH4 以上 6 未満の注射薬
- 20 pH8 以上 10 未満の注射薬
- 21 pH10 以上の注射薬

索引

1 注射薬製剤について

1.1 注射剤の種類と適応

第 15 改正日本薬局方製剤総則において、注射剤は次のように定義されている。

注射剤は、皮膚内又は皮膚若しくは粘膜を通して体内に直接適用する医薬品の溶液、懸濁液、乳濁液又は用時溶剤に溶解若しくは懸濁して用いるもので、無菌の製剤である。

注射剤は体内に直接注入する剤形であり、含量の均一性の確保が重要であることから、均一性の確保は製剤均一試験法で定義されている。また、注射剤の表示量の確保には薬液になっている注射剤、輸液用注射剤に適用される注射剤の採取容量試験法で定義されている。

製剤均一試験法は第 14 改正日本薬局方で初めて記載された試験法で、第 14 改正日本薬局方で個別に記載されていた含量均一性試験、質量偏差試験を統合したものである。本試験法の目的は、個々の製剤について一定の治療効果を保証するために、製剤中の有効成分の含量が表示量を中心として望ましい範囲に収まっていることを保証するためのものである。

採取容量試験法は第 15 改正日本薬局方で初めて記載された試験法で表示量よりやや過剰に採取できる量が容器に充填されていることを確認するものである。本試験法には上限が示されていないが、表示量より過大に投与されると安全性の観点から問題が生じるとされる。第 14 改正日本薬局方においては製剤総則の注射剤の項に次のように記載されている。

薬液の実容量は表示量よりやや過量で、表示量を注射するにたりる量である。

薬液を 1 回用容器に入れる場合、その過量は、通例、表 1 による。本剤 10 個をとり、平均実容量を求めるとき、上表規定による表示量及び過量の和の 107% 以下である。また、個々の注射剤は表示量以上で、表示量及び過量

18 pH4 未満の注射薬

(規格pHの平均値を中央値とした)

商品名	一般名	中央値	規格pH
アクタミン注射液	塩酸チアミン	3.5	pH2.5~4.5
アシアロシンチ注	ガラクトシル人血清アルブミンジエチレントリアミン五酢酸テクネチウム(99mTc)	3.25	pH2.5~4.0
アジリース注	ジピリダモール	2.75	pH2.5~3.0
アデロキシ注射液	塩酸ピリドキシン	3.25	pH3.0~3.5
アトニン-0注	オキシトシン	3.5	pH2.5~4.5
アプロバン注射液	塩酸ニカルジピン	3.75	pH3.0~4.5
アヘンアルカロイド・アトロピン注射液	アヘンアルカロイド・アトロピン注射液	3	pH2.5~3.5
アヘンアルカロイド塩酸塩注射液	塩酸アヘンアルカロイド	3	pH2.5~3.5
アヘンアルカロイド・スコポラミン注射液	アヘンアルカロイド・スコポラミン注射液	3	pH2.5~3.5
アポブロン注	レセルピン	3.25	pH2.5~4.0
アラセナ-A点滴静注用300mg	ビダラビン	3.35	pH3.0~3.7 300mg/250mL (生理食塩液)
アリナキシンF注射液	塩酸フルスルチアミン	3.8	pH3.3~4.3
アリナミンF100注	塩酸フルスルチアミン	3.5	pH2.7~4.3
アリナミンF5, 10注	塩酸フルスルチアミン	3.65	pH3.0~4.3
アリナミンF25注, 50注	塩酸フルスルチアミン	3.8	pH3.3~4.3
アリナミン注射液10mg	プロスルチアミン	3.5	pH3.0~4.0
アルチバ静注用	塩酸レミフェンタニール	3	pH2.5~3.5 1mg/1mL(注射用水)
アロテック注射液	硫酸オルシブテリン	3.5	pH3.0~4.0
アンパック注	塩酸モルヒネ	3.75	pH2.5~5.0
イセジビール注	塩酸ニカルジピン	3.75	pH3.0~4.5
インデラル注射液2mg	塩酸プロプラノロール	3.15	pH2.8~3.5
エコナール注	フマル酸ニゾフェノン	3.5	pH3.0~4.0
エスアリネート注射液(50mg)	塩酸フルスルチアミン	3.8	pH3.3~4.3
エピネフリン注0.1%シリンジ「テルモ」(1mL)	エピネフリン	3.65	pH2.3~5.0
エピペン注射液	アドレナリン	3.6	pH2.2~5.0
エルゴメトリン注射液F	マレイン酸エルゴメトリン	3.1	pH2.7~3.5
塩酸チアミン注「フソー」	塩酸チアミン	3.5	pH2.5~4.5
塩酸チアミン注射液(ツルハラ)	塩酸チアミン	3.5	pH2.5~4.5
塩酸ドブタミン注100mg	塩酸ドブタミン	3	pH2.7~3.3
塩酸ナロキソン注射液「三共」	塩酸ナロキソン	3.75	pH3.0~4.5
塩酸バンコマイシン点滴静注用0.5g	塩酸バンコマイシン	3.5	pH2.5~4.5 5mg(力価)/1mL (生理食塩液)
塩酸バンコマイシン点滴静注用0.5g「TX」	塩酸バンコマイシン	3.5	pH2.5~4.5 5mg(力価)/1mL (生理食塩液)
塩酸バンコマイシン点滴静注用0.5g「メルク」	塩酸バンコマイシン	3.5	pH2.5~4.5 50mg(力価)/1mL (注射用水)
塩酸B1注10mgシリンジ「NP」	塩酸チアミン	3.5	pH2.5~4.5
塩酸B1注「ヒシヤマ」10mg	塩酸チアミン	3.5	pH2.5~4.5
塩酸モルヒネ注射液	塩酸モルヒネ	3.75	pH2.5~5.0
塩酸モルヒネ注射液「タナベ」	塩酸モルヒネ	3.75	pH2.5~5.0
塩酸モルヒネ注射液「シオノギ」	塩酸モルヒネ	3.75	pH2.5~5.0
オキシトシン注射液F	オキシトシン	3.5	pH2.5~4.5

組 見 本